



【は】っけん・気付く

久遠

【ル】ートを考えつながる

【え】がおを創り出す



春江中学校教育目標

- 自ら進んでよく学び、協力して働く生徒
- 規律を守り、責任を重んずる生徒
- 心身ともに健康で、思いやりのある生徒

便利な道具をよりよく使うために 7月6日 朝礼 校長講話より一部抜粋

校長 友田 和

皆さんの周りには、以前にはなかった便利なものがたくさんあります。スマートフォンやSNS、翻訳アプリ、動画、そして最近ではAIを使ったサービスも、とても身近になってきました。これからの社会では、こうした便利な道具を上手に使う力が、ますます大切になっていきます。ただし、便利な道具は、使い方によって、人の力にもなれば、困らせるものにもなります。

例えば、AIが出した答えは、とても分かりやすく見えることがあります。文章も整っていて、もっともらしく感じることもあります。しかし、AIの答えがいつも正しいとは限りません。間違った情報が含まれていることもありますし、自分の状況に本当に合っているとは限りません。

だからこそ、AIの答えをそのまま鵜呑みにするのではなく、「これは本当に正しいのだろうか」「ほかの見方はないだろうか」と、一度立ち止まって考えることが大切です。

便利な道具が増えるほど、大切にしたい力があります。それは、相手の気持ちを考える「想像力」と、自分の考えを相手に分かるように届ける「伝える力」です。（前回の朝礼でもお話しましたが、大切なことですので繰り返し伝えていきます。）

AIは文章を作ることができます。SNSは言葉をすぐに届けることができます。けれども、その言葉を受け取った相手がどう感じるかを考えるのは、使う私たち自身です。

画面の向こうにも、必ず相手があります。その相手にも、心があります。だから、送信ボタンを押す前に、少しだけ立ち止まってください。「これは相手を傷つけないだろうか」「自分が同じことをされたら、どう感じるだろうか」「家族や先生に見せても大丈夫な内容だろうか」この三つを考えるだけでも、防げるトラブルはたくさんあります。

これからの時代は、便利な道具を上手に使う力が求められます。そして、上手に使うというのは、ただ上手く操作ができるということではありません。正しいかどうかを考えること。相手の気持ちを想像すること。自分の考えを伝える形で表すこと。困ったときに、誰かに相談できること。それらも含めて、便利な道具を使いこなす力だと思えます。

7月は、1学期のまとめに向かう時期です。毎日の生活の中で、自分の言葉や行動を少し振り返りながら、自分も相手も大切に作る行動を積み重ねていきましょう。

生成AIの授業での活用について

江戸川区では学力向上施策として、英語科では「躊躇なく英語でやり取りできる生徒の育成」を目標としています。今年度、中学校2年生で「オンライン英会話」「AIアプリ」が導入されました。

AIアプリでは、生成AIキャラクターと英会話で即興的なやり取りをしたり、音読や英作文練習をして、即座に文法の添削が受けられるなどの機能を搭載しています。毎日の取り組みにより、英語力の向上が期待できますので、ご家庭でも話題にしていいただければと思います。

また、本校では国語科、数学科、技術科の授業において、必要に応じAIを活用した取り組みを行っています。